

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100302
法人名	医療法人 佐藤循環器科内科
事業所名	グループホーム 朝生田の里
所在地	松山市朝生田町4丁目10-25
自己評価作成日	平成27年6月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当施設は約半分の方が週3回の透析を行っています。水分・食事・運動制限がある中で生活し、その中で楽しみを見つけて生活して頂いています。その中でレクリエーションは力を入れています。</p> <p>地域との交流を大切にしている地域密着型を目指し、職員が寄り添い、家族と共に支えながら終末まで過ごして頂けるようにグループ全体で支援しています。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年7月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>透析を行っているため、水分・食事量の制限のある利用者そうでない利用者は、居間の席を分けている。テレビの上に手作りカレンダーを吊っており、利用者から日にちを聞かれた時は、カレンダーを見ながら利用者と一緒に確認している。隣接病院に続く中庭には、花壇があり、しそやなすび、ピーマン等を植えている。野菜に支柱を立てる作業等は利用者が率先して行い、職員にヒモの結び方等を教えてくれるようだ。利用者が水やり等を行うこともある。調査訪問時、居間では、利用者と職員がトランプで遊んでいる様子が見られた。</p> <p>管理者は、職員と年2回、面談して「取組みたいこと」「利用者の対応について」「職員間のやり取りについて」等聞き取り、精神面についてもサポートしている。管理者は、職員の話をもじっくり聴くことで意見や提案の表出が増えたと感じている。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけられている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム朝生田の里

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 名本 公平

評価完了日 27 年 6 月 11 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			尊厳の保持・自立支援・地域との密着の3つの理念を掲げ、共有し実践に繋げている。	
			(外部評価)	
			理念は、事務所や通路に掲示している。管理者は、新人研修時や月1回のミーティング時に、利用者を「自分や家族に置き換えて考えながらケアを実践してほしい」と話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			夏祭りや運営推進会議に参加して頂いたり、盆踊りや地域の体育祭・防災訓練には利用者、職員も参加している。	
			(外部評価)	
			散歩時の挨拶や地域主催の夏祭りや敬老会への参加、又、事業所で行う夏祭り等を通じて地域交流に取り組んでいる。事業所の夏祭り前には、利用者と地域住民宅を回り出店のチケットを添えて案内している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議で利用者の様子を説明したり、地域行事の際にお話しする機会をもうけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
				ホームでの様子を話し、参加された方に他の施設での取組みなど情報交換している。	
			(外部評価)		
			会議には、民生委員、市や地域包括支援センターの担当者が参加している。現在は、行事報告が中心の会議になっている。	管理者は、地域の方やご家族を対象にした、「認知症の理解」「成年後見人制度」についての勉強会を行い、参加者を増やしたいと話していた。所在する地域の中のグループホームとして地域ニーズ等も探り、協働の取組み等も模索していかれてほしい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)		
				運営推進会議での交流や管理者が協力関係を築くように取り組んでいる。	
			(外部評価)		
			運営推進会議時には、市の担当者から、感染症予防をしっかり行うようにとのアドバイスがある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)		
				内部研修、外部研修等で各職員が理解をし、拘束しないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価)		
			日中は、玄関の施錠はしていない。管理者は、ミーティング時に「どうすれば、身体拘束しないで済むのか考えるように」と話している。昼間うとうとして夜間不眠の方には、日中散歩等で活動量を増やし、入眠剤を使用せずに済むような支援に努めている。病院入院時にベッドから転落したことのある利用者には、ご家族からの希望もあって居室に布団を敷いて対応している。		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  研修にて学ぶ機会を持ち、日頃のチェックと本人・家族様と密な話し合いで、良い関係づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  必要なら相談に乗り、支援できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時に説明し納得して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  ご意見箱の設置。年1回の外部評価、契約時に各関係機関へ連絡先をお知らせしている。  (外部評価)  疎遠になっているようなご家族や仕事で忙しく来訪が少なめのご家族には、利用者のレクリエーション時等の写真を送付している。透析のため水分や食事制限のある利用者が複数おり、ご家族には、おやつ等の差し入れは本人に直接渡さず、職員に相談してほしいと説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のカンファレンス、年3回の全体会議で意見交換を行っている。 (外部評価) 透析を行う利用者は水分量が決められているが、飲み物を欲しがらる方もあり、職員で話し合っって食事時のお茶の量を減らし、希望時に少しずつ飲めるようにしたケースがある。管理者は、職員と年2回、面談して、「取組みたいこと」「利用者の対応について」「職員間のやり取りについて」等聞き取り、精神面についてもサポートしている。管理者は、職員の話じっくり聴くことで意見や提案の表出が増えたと感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年末に報告書を作成し提出している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修参加や学会発表を勧めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業所の会議参加や交流会に参加している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時に、本人・家族の要望などを聞き、ケアに反映させられるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にセンター方式を活用しながら、本人・家族と話し合いを行い、要望等に耳を傾けながら関係づくりを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他の専門職にも意見を聞きながら支援できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日頃自宅でしていた家事など職員と一緒にやって頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回程度、家族参加型のレクを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 居室に電話があり、いつでも外部に連絡できる環境づくりができています。外出外泊も可能である。  (外部評価) 友人等の来訪時には、時々に応じてゆっくり過ごせるように居室や居間に案内し、お茶等をお出しし気配りをしている。各居室に電話があり、利用者は自由に使用できる。利用者が電話する際には、職員が番号を押す等してサポートしている。ご自宅のことを気にする利用者と一緒に自宅の様子を見に行き、写真を撮って帰る等して支援したケースがある。職員がご家族の様子等をお話して、ご本人の気持ちは落ち着いたようだ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)  交流が苦手な方には職員が間に入りコミュニケーションが図れるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)  契約終了後相談や支援を行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)  本人の思い等は普段の会話から汲み取ったり、家族に聞いたりしケアに反映している。	
			(外部評価)  入居時、ご家族には、シートに沿って利用者の生活歴、趣味趣向、日常生活動作に関する内容を記入してもらい、その情報をもとにして、さらに職員が聞き取りして情報を追加している。職員は、利用者との日常会話の中から「家に帰りたい」「お墓参りに行きたい」等の希望を聞き取っている。	職員個々が聞き取った利用者の暮らし方の希望や意向についての情報を職員間で共有し、支援につなげていけるよう仕組み作りを工夫してほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)  センター方式を活用し、日々の会話の中から生活歴を探り、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)  ケース記録に記入し把握している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族より希望を聞きカンファレンスを開き、ケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、利用者やご家族から聞き取った希望をもとにして、利用者個々の担当職員と計画作成担当者が中心となり作成している。介護計画は、毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直している。プラン内容が実行できているかチェック表を作っており、日勤帯の職員が毎日チェックしてモニタリング時に活用している。計画の支援内容については、介護記録内に青ペンで記入して分かりやすいように工夫しており、職員は介護計画内容を意識して支援を実践している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日頃の様子をケース記録に記入し、職員間で情報共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>訪問マッサージ、歯科往診、散髪などが行える。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近所の散歩や地域の店で買い物を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)  母体病院があり必要な時に必要な医療が受けられる。	
			(外部評価)  併設する母体病院が24時間体制で対応している。母体病院のシステムを利用して、事業所の看護職員は、医師や看護師と利用者個々の健康管理を行っており、体調変化等も報告して連携を図っている。眼科や精神科等の受診はご家族が対応しており、車椅子を使用する場合は、職員が使用方法を説明している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)  ホームの看護師だけでなく、母体病院の看護師とも情報共有している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)  本人・家族の状況に合わせて対応している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)  各専門職と協力し、家族と話し合いを行っている。重度化した時の指針を作成している。	
			(外部評価)  食事量が減っている利用者から「そばが食べたい」と希望があり、受診の際、病院の食堂で娘さんや管理者と一緒にそばを食べることができるよう支援された。よく食べに行っていた頃のお話等もされて、たいへん喜ばれたようだ。看取りの指針に基づき、入居時に「事業所でできること」「かかりつけ医との連携」について説明し、利用者やご家族から支援の希望を聞いている。最近では2名の方の看取りを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  急変時マニュアルを作成している。また、研修への参加やカンファレンス時に再確認を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  年に2回防災訓練を行っている。運営推進会議等で地域の方へ協力要請を行っている。	
			(外部評価)  昨年12月に消防署立ち合いの下、夜間時の火災を想定して避難訓練を行った。職員が利用者役になってレスキューシートを使い、2階の外階段から避難する訓練も行った。消防署からは、「避難の際に職員間で声掛けが良くできていた」「階段では足元を下にして避難できていた」「火元に近い階段は実際には使用できないので避難経路を検討するように」と感想やアドバイスがあった。職員からは、避難終了後も「誰かいませんか」と声掛けをして、最終の確認をした方が良いのではないかという意見が出された。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  人格を尊重しプライバシーを守るように努めている。	
			(外部評価)  皮膚剥離の危険性が高い利用者については、ご家族とも相談して、入浴時、居室で着脱介助を行っている。居室から浴室までの移動時には、身体全体を大判のタオルで覆うようにしている。又、居間にいる利用者の視線が利用者ご本人から逸れるように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  コミュニケーションを取りながら、さまざまな事を聞き取り、実現できるように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)  個々のペースで過ごせるように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)  更衣時に何を着るかご本人に決めてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  選択メニューがあり好きな方を選ぶことができる。準備や片付けを手伝ってもらったりしている。	
			(外部評価)  利用者の7割以上が透析を行っており、食事制限、水分制限があるため、昼・夕食は管理栄養士の管理の下、隣接する病院で調理したものが届くようになっている。朝食は、事業所内で作るが、塩分量や献立内容については、管理栄養士に相談している。又、職員の意見で朝食に味噌汁を作るようになり、利用者に好評のようだ。味噌汁は水分量を減らす分、具材を多くしている。目の不自由な方には、「大きな器は〇〇が入っています」等と、器の大きさを食事内容等を説明していた。外食やイベント時は透析を行っている方も、医師の許可する範囲で、食事制限、水分制限を行っていないこともあり、外食やイベントの食事を楽しみにする方も多いようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)  各利用者の1日の水分量を把握している。食事低下がみられた場合は管理栄養士に指示をもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)  毎食後口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			職員で情報共有を行い、個人に合ったトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価)	
			入居時、ベッド上でおむつ交換する状態だった方があったが、トイレで手すりを持ち立位を保つ練習を繰り返し、現在は紙パンツで過ごし、ご自分から「トイレに行きたい」と言われている。又、紙パンツを使用している方であっても、トイレで座位が保てる方については、時間を決めて誘導し、排泄がなければ、次は早めに声掛けをする等して、なるべくトイレで排泄できるような支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分制限があり下剤を内服している方もいる。日中身体を動かしてもらい出来るだけ便秘にならない様に気を付けている。	
			(自己評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	透析日は入院できないが週3回は入浴できる環境を作っている。	
			(外部評価)	
			週3回入浴ができるよう支援している。シャンプーは、個々に利用者の気に入っているものをご家族に用意してもらっている。長風呂が好きの方、入浴後、脱衣場でゆっくりと休憩する方等、一人ひとりの入浴習慣を大切に支援に努めている。入浴時間もある程度は決めているが、その日の利用者の希望や状況を踏まえて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			昼夜逆転や身体に負担をかけないように過ごしてもらい、体調不良時には無理せず休んで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  薬剤師に説明を受けている。分からない時には主治医や看護師に聞いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  コミュニケーションを通じて各利用者の思いや希望を知るようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  施設周辺の散歩や外出レクを行っている。	
			(外部評価)  天候の良い日は、事業所周辺を散歩している。週1回の全体レクリエーションの折に外出をすることもあり、買い物や外食等を楽しめるよう支援している。回転寿司は人気で普段より食事量が増えるようだ。今後は、ドライブを兼ねて、流しそうめんに行く予定がある。重度の方で外出が難しい方は、車いすで中庭に出て戸外の空気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  金庫預りの方と本人管理の方がおられる。本人管理の方は家族と情報交換を行い、問題が起きない様に務めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  居室に電話がある。携帯を持っている方もおられ好きな時に電話されている。手紙を書かれている方は今はいませんが、届いたら本人にお渡ししている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の見えるところに写真を飾ったり、リビングから花壇が見え、一緒に花を植えたりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>透析を行っているため、水分・食事量の制限のある利用者としてでない利用者は、居間の席を分けている。テレビの上に手作りカレンダーを吊っており、利用者から日にちを聞かれた時は、カレンダーを見ながら利用者と一緒に確認している。隣接病院に続く中庭には、花壇があり、しそやなすび、ピーマン等を植えている。野菜に支柱を立てる作業等は利用者が率先して行い、職員にヒモの結び方等を教えてくれるようだ。利用者が水やり等を行うこともある。調査訪問時、居間では、利用者と職員がトランプで遊んでいる様子が見られた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>廊下に長椅子、中庭にベンチがある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自宅から家具を持参されたり、思い出の写真を飾ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、ご家族と一緒に撮った写真を飾ったり、編み物がお好きな方は、娘さんが定期的に毛糸を持参してくれて、編み物を楽しんでいる。歴史の漫画が好きな利用者は、昼食後、居室のベッドで横になって漫画を読んでいた。観葉植物を飾っている方には、職員が水やり時期に声かけして世話できるようサポートしている。タンスや仏壇を持ち込まれている方もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>廊下に手すり、段差もなく自分の居室が分かるように表示している。</p>	